

第6章

環境演出計画（照明）

【基本計画からの変更点】

- ◇ 基本計画策定時に想定されていなかった夜間営業の実施のための照明配置を計画。

1) 前提

基本計画でうたわれる拡張区域におけるナイトズーの計画に先立ち、現既存区域において、夜間営業の実施を目指す。

日没後の園内の安全の確保と、ライトアップによる魅力ある景観の創出のために、来園者動線を中心に照明計画を考え方を示す。ただし動物ゾーンにおいては、来園者への見せ方はもとより、展示動物ごとの生態や特性にも配慮し、動物にとってストレスの少ない照明環境を目指すこととする。

2) 既存設備の扱い

既存区域に設置されている高いポール灯は、メンテナンスを目的に広範囲でフラットに照らすものであるため、魅力的な世界観の創出には適さない。このタイプの照明は従来通りメンテナンス時に使用することとし、夜間営業においては使用しないものとする。同様に各処の器具の使用可否において、実施計画時に仕分けをする必要がある。



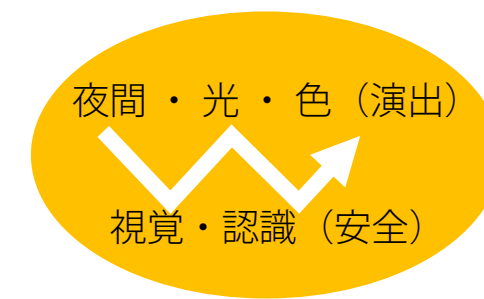
現在設置されているポール灯は、観光演出には適さない。

3) 照明計画の考え方

沖縄こどもの国における夜間照明は、日没後の照度の確保に留まらず、メリハリのあるライトアップ効果により日中は気づかなかった印象的な景観を創出し、日没後から退園まで園内をゆっくりと散策することで、昼間とは違う自然や動物の様子を楽しんでいただくためのものである。

●昼間の表情とは異なる夜間景観（魅力的な夜の表情）の創出

光を有効に用いて照明計画を施し、保安と演出の両立を図る。



感覚的に光を追って巡り辿り着く

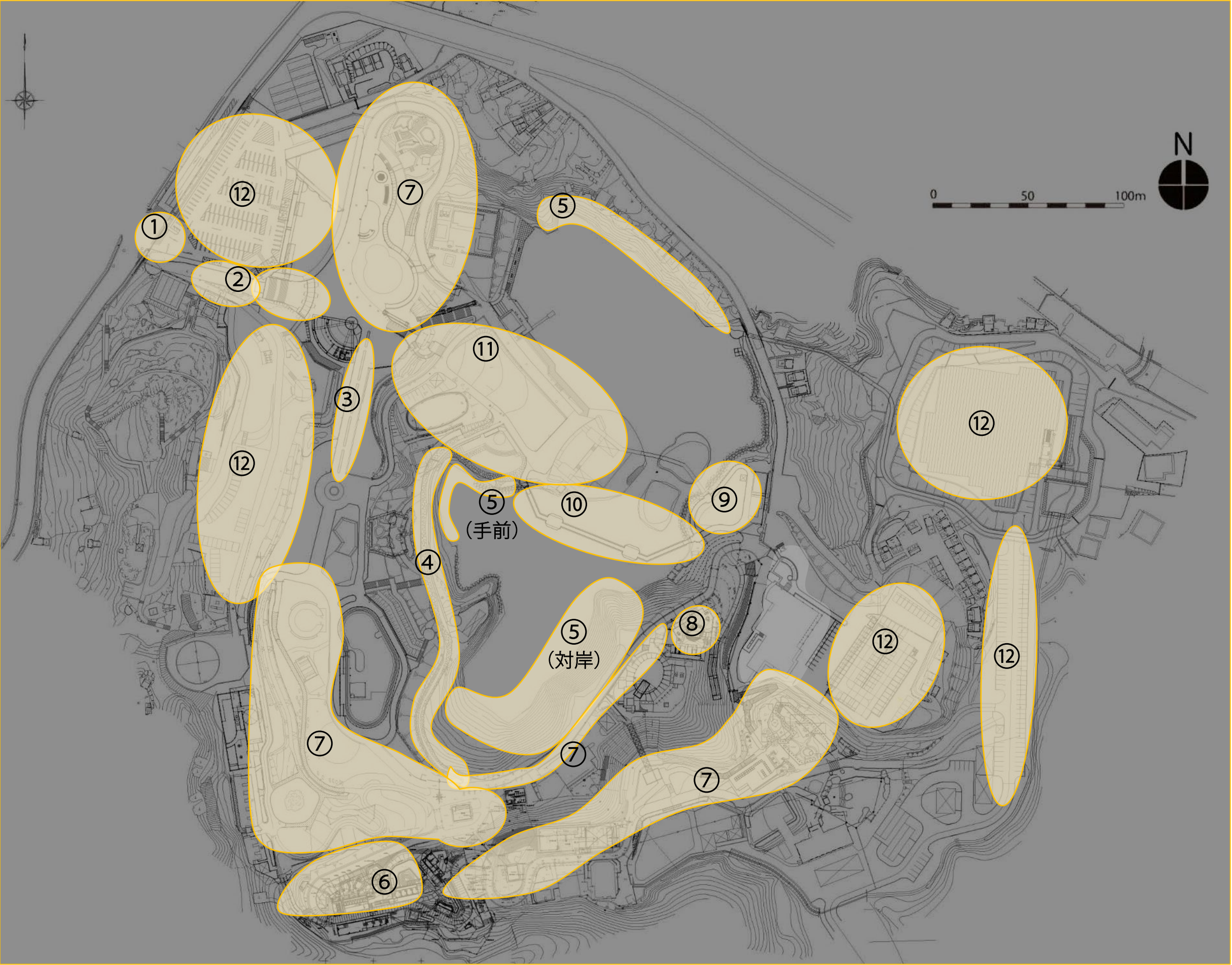
夜間営業のエリア内の導線に対して、メリハリのある多彩な光を配置。

来園者は感覚的に光をたどることで、安全かつ直感的な
ツナガリウムの世界観を体感することができる。

例えば園路において、来園者を誘導する足元の低い位置での連続する光が安心感を与えると同時に、植栽へのアップライト照明により、目線の高さに鮮やかな緑色が、美しく演出された修景をつくる。



メリハリのある照明演出の事例



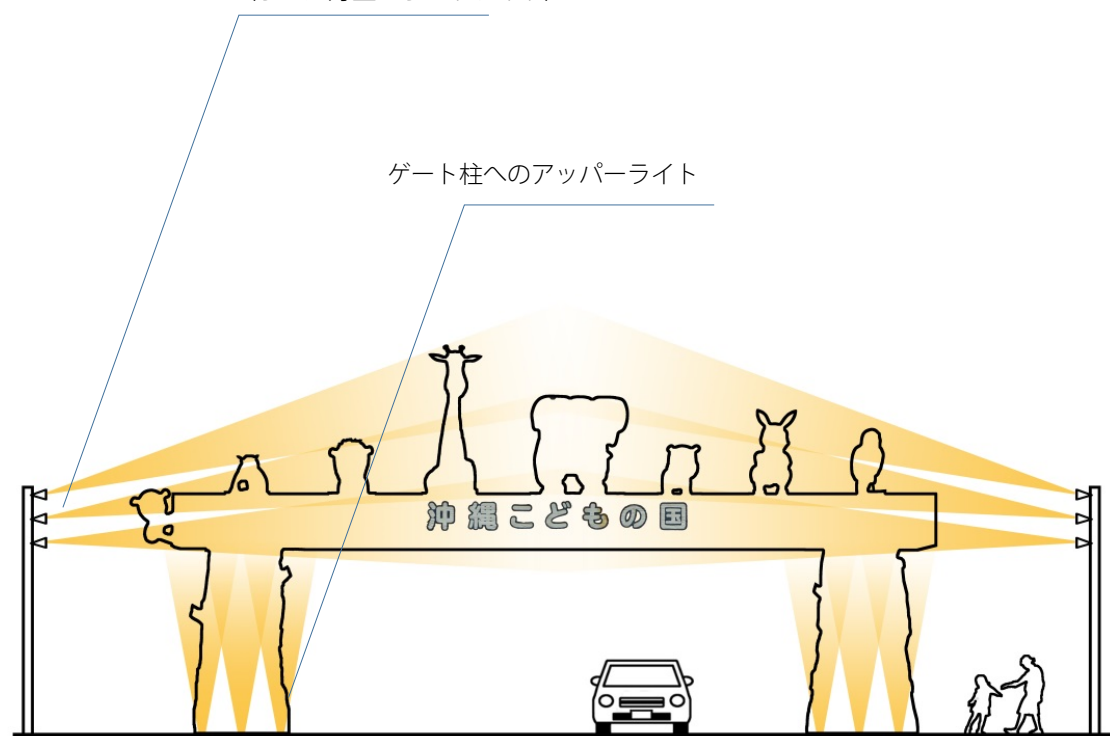
① メイン駐車場～メインエントランス

夜間のライトアップでこどもの国通りや郵便局通りの各方面に向けて夜間営業中であることの認知をはかる。駐車場内の安全を確保し、メインエントランスへ誘導する賑わいを感じさせる照明設計が必要となる。



夜間のメインゲートの視認性向上の為に光
(ポール灯型スポットライト)

ゲート柱へのアップライト



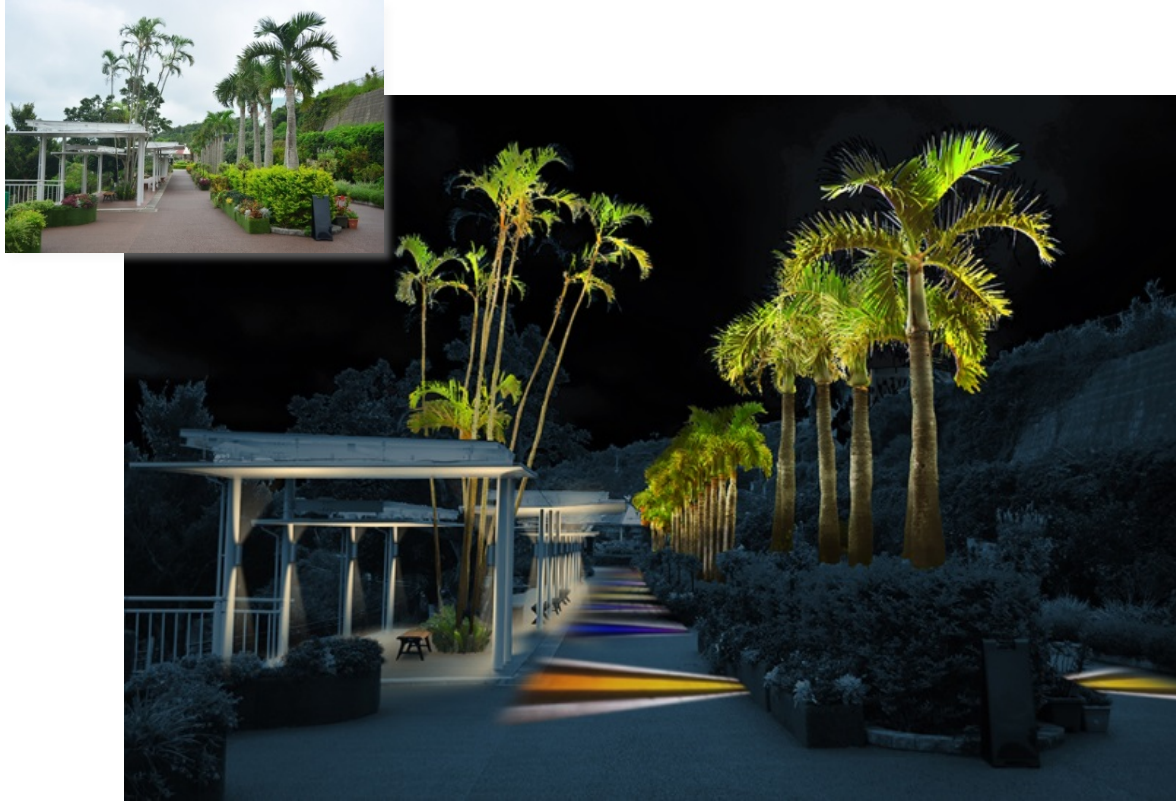
② メインエントランス周辺

エントランスが階段の下にあり、駐車場からはすぐに視認できないので、階段上のサイネージ電光とそれを囲む植栽をライトアップすることで、夜間の来園者をエントランスに誘導する。退園時もゲートを魅力的にライトアップすることで、来園者の楽しかった思い出を印象付ける効果をもたらす。



③ パームツリー通り

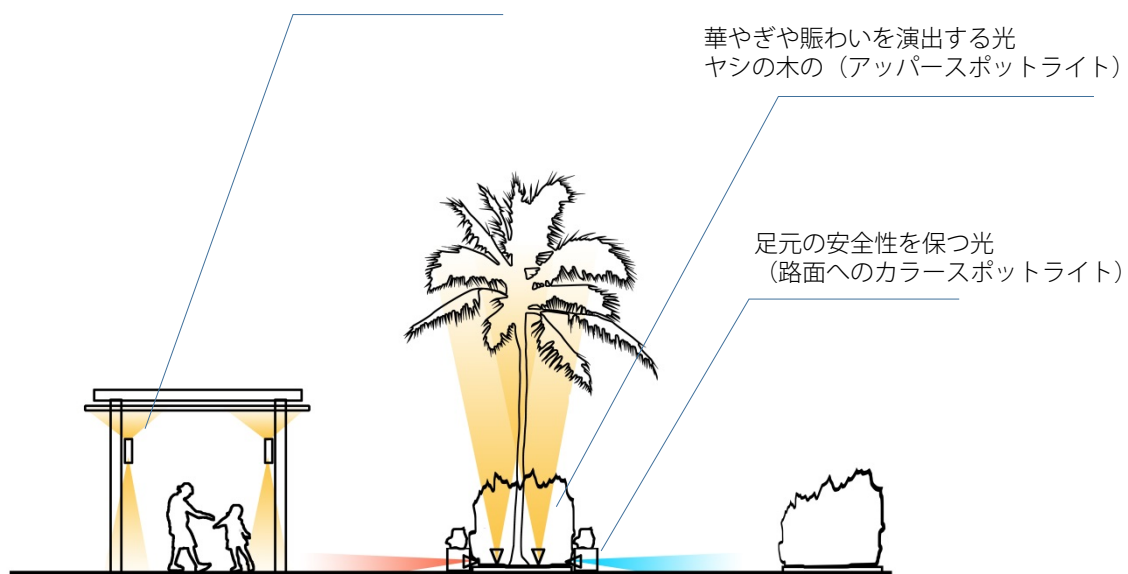
足元に伸びる色とりどりの光、パームツリーを照らすアップライトで、メリハリのある演出。また来園者通路となる底のルートは、柱に上下方向を照らすスポットライトを設置する。



休憩スペースの機能と景観演出の為の光
(上下配光ブラケットライト)

華やぎや賑わいを演出する光
ヤシの木の (アッパースポットライト)

足元の安全性を保つ光
(路面へのカラースポットライト)



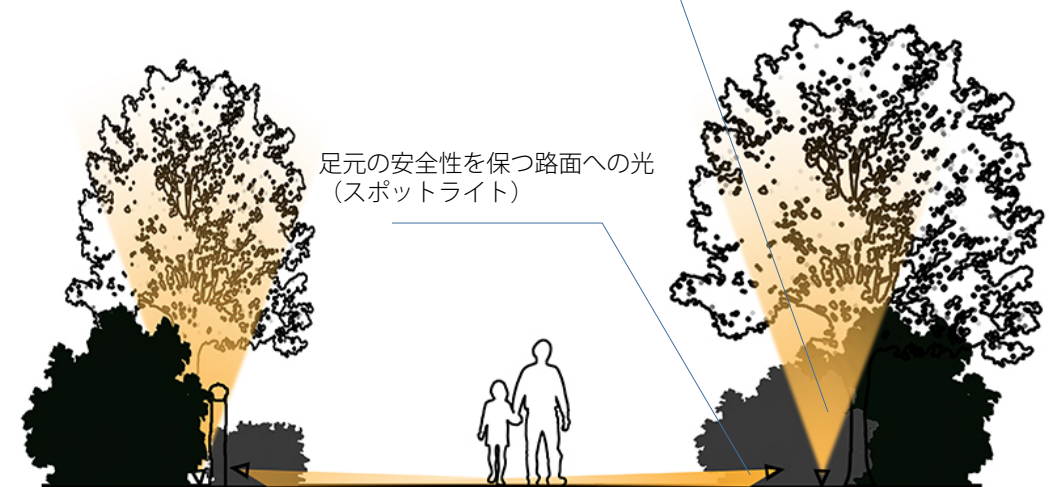
④ ライオンズ・サクラ通り (1)

ライオンズ・サクラ通りは芝生広場から動物ゾーンに向かうルート。現状は来園者の通行はそれほど多くはないが、夜の新たな魅力としてワクワク感を掻き立てる散策路として照明効果を演出する。



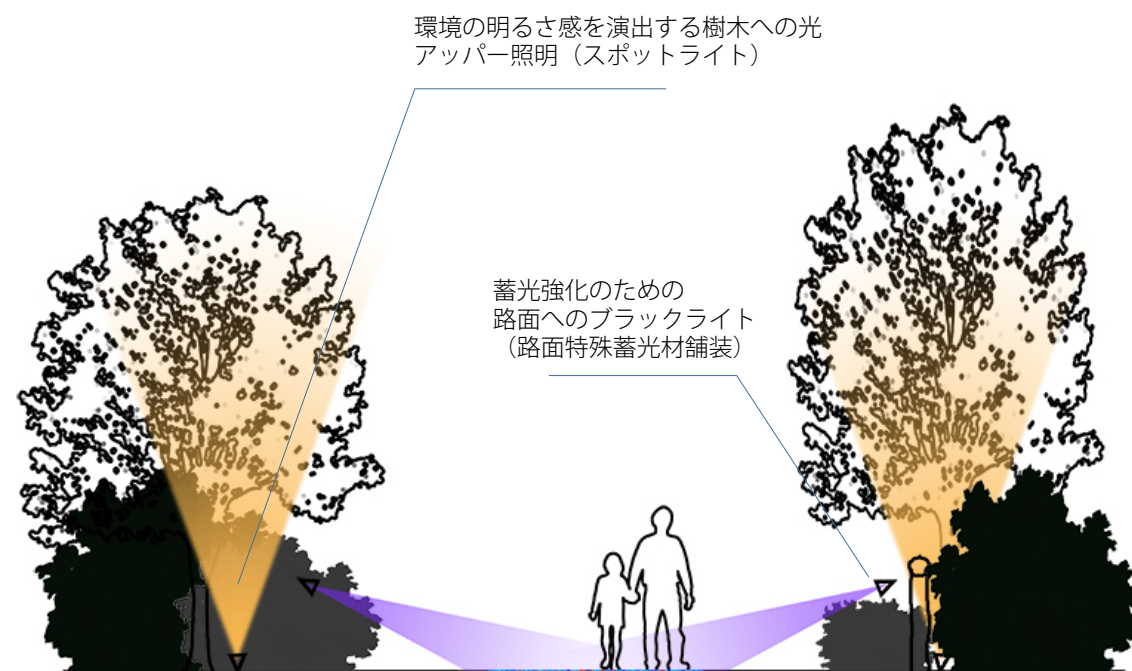
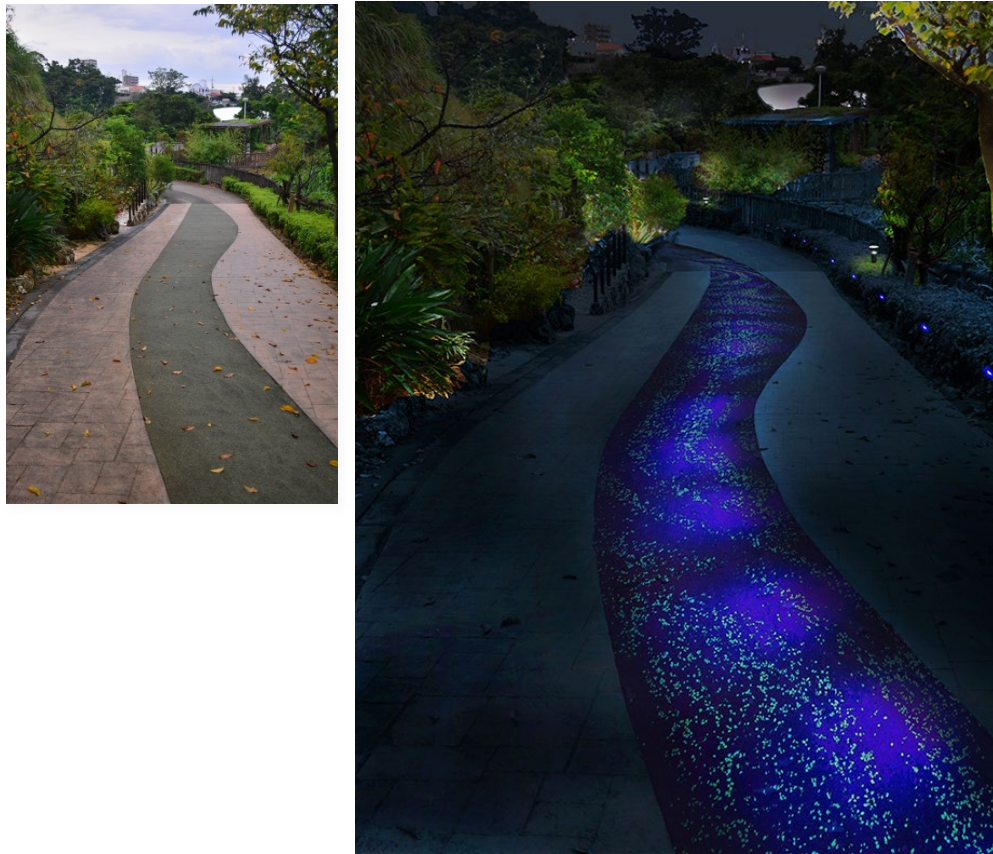
環境の明るさ感を演出する樹木への光
アッパー照明 (スポットライト)

足元の安全性を保つ路面への光
(スポットライト)



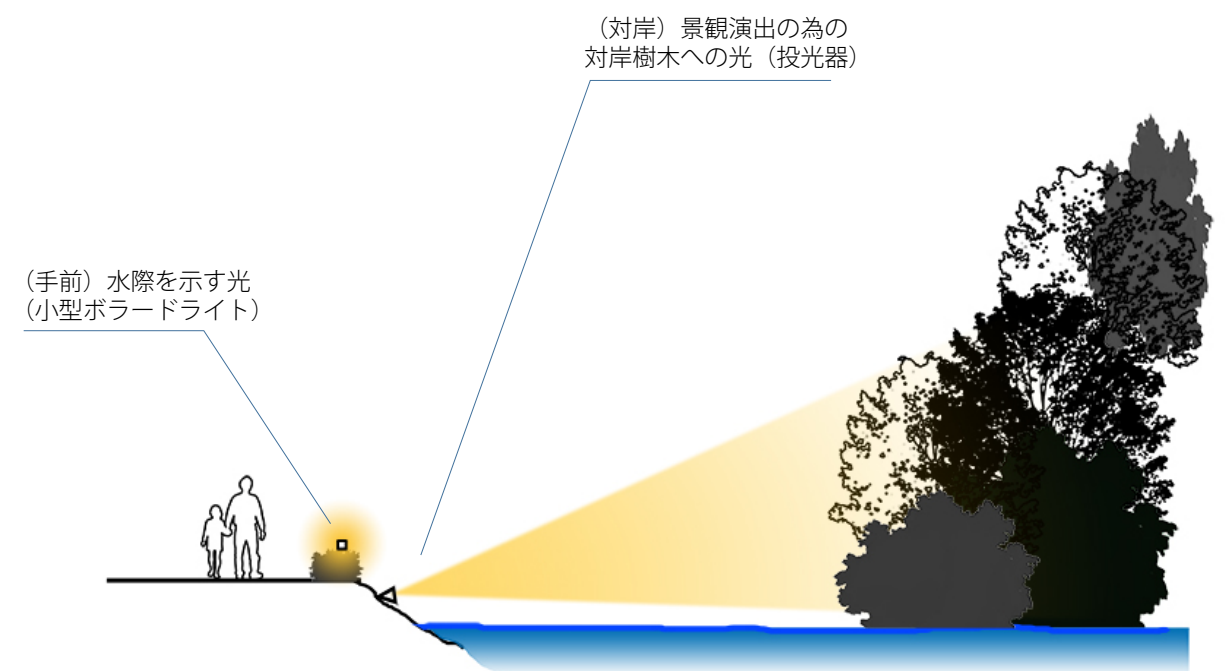
④ ライオンズ・サクラ通り（2）

路面に特殊な材料を施して、ブラックライトを照射すると夜間のみにも出現する幻想的な魅力のスポットとして演出することができる。



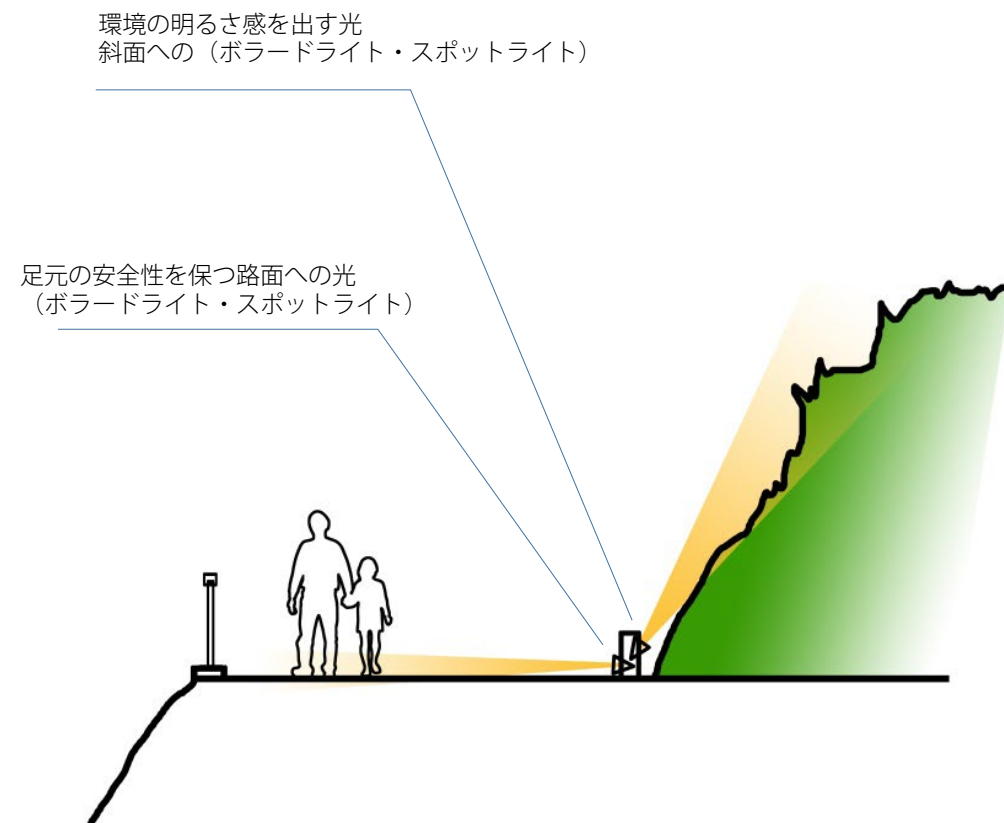
⑤ 池：水辺

池周囲の輪郭を形成する緑地帯で高台や東屋付近、また休憩所エリアから湖畔の緑豊かな景観部分は、夜間この緑が暗く沈んでしまう事が無いようにふんわりと対岸からライトアップを行い、夜間の湖畔景観を演出する。



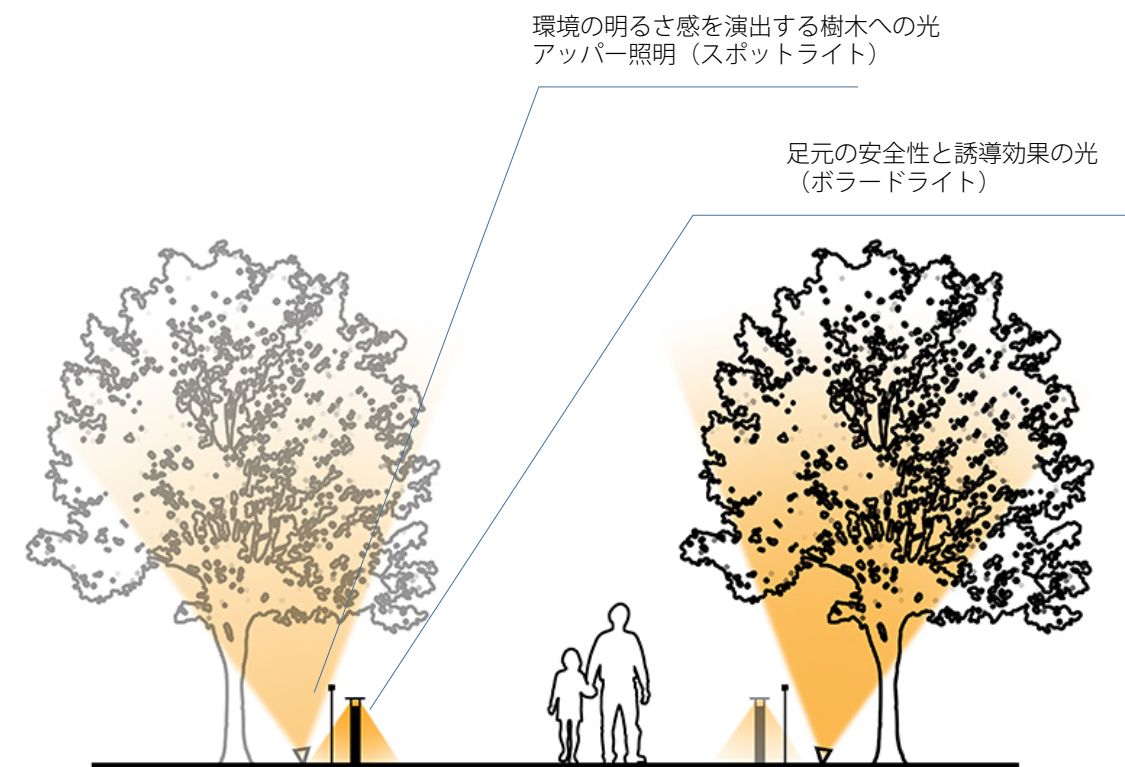
⑥ 里山の迷宮エリアに向かう坂道

琉球弧エリアから里山の迷宮エリアに向かう坂道の動線は、斜面の緑地面が大きく視野に飛び込むので、夜間この緑地帯と足元をライトアップする。（里山の迷宮エリア、小動物獣舎周辺の改修計画を考慮）



⑦ 動物ゾーン・園路

園路は動物に負担をかけることのないよう、安全が確保できる必要最低限の光で「夜の動物園」の演出を行う。夜間の静寂と動物の息遣いを感じられる様なメリハリのある照明を行い、特に足元の安全が保てる最低限の明るさを設け、ところどころに存在する中高木に対して柔らかくライトアップし来園者を誘導する。

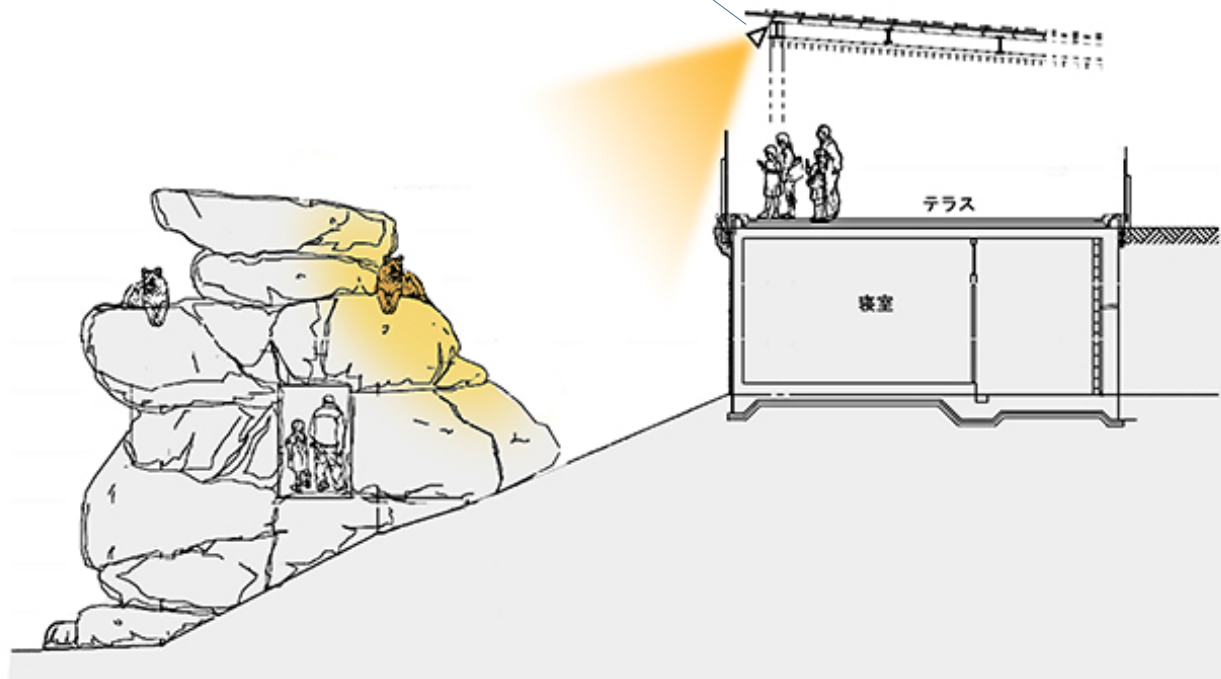


⑧ 獣舎

獣舎においては、来園者の見易さよりも動物にストレスがかかりにくい限定して照明配置をする。夜間の動物の特徴ある表情が観察できる、パドックの限定した範囲にスポットライトをあて、動物がそこに留まるよう、仕掛けをする。灯体はグレア（眩しさ）が出ないよう設計されたものを選ぶ。



動物への光
(動物の種別で光を適宜選択)



⑨ スイングパーク

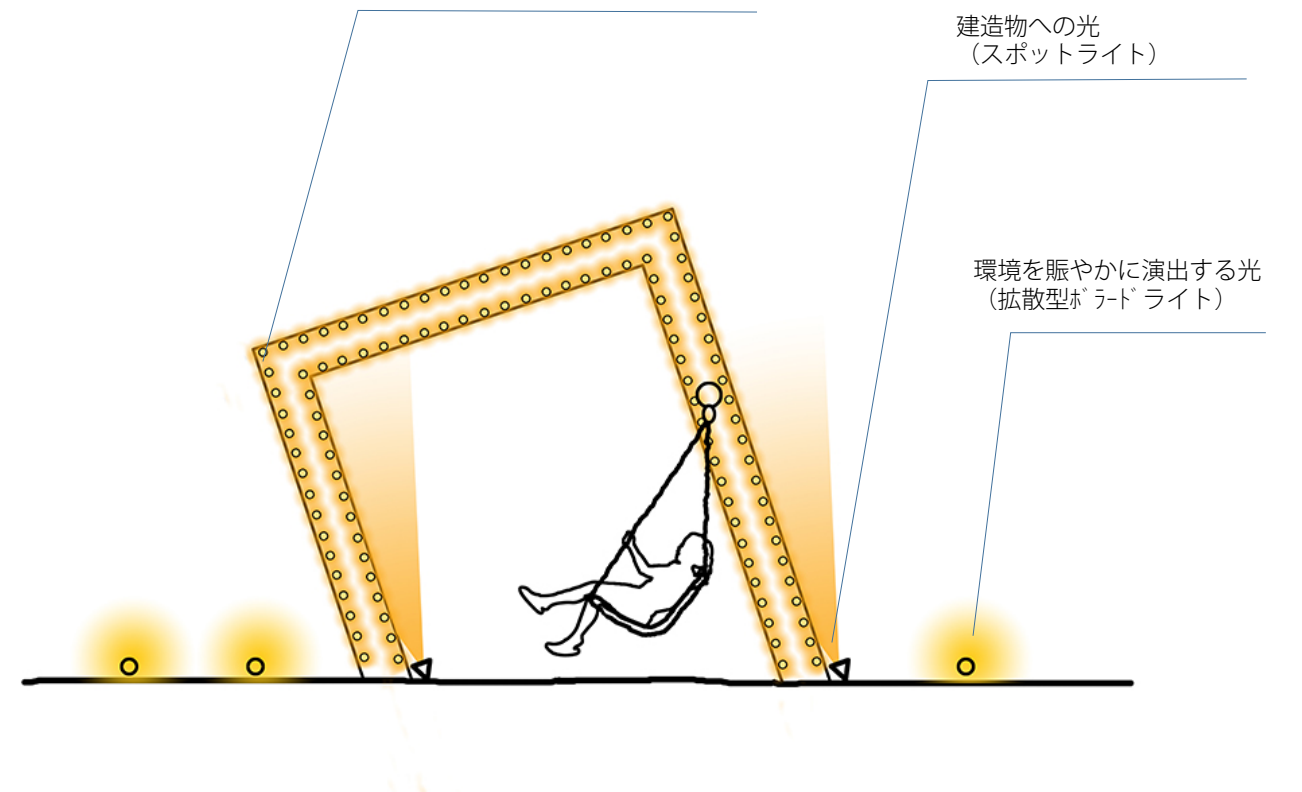
ロータリー広場内のスイングパークは、夜間の照明により構造体部分を浮かび上がらせ、際立たせる。こどもも大人も遊びたくなるわくわくするようなドラマティックな場に演出する。



空間に賑わいと華やきを演出する光
(チボリライト)

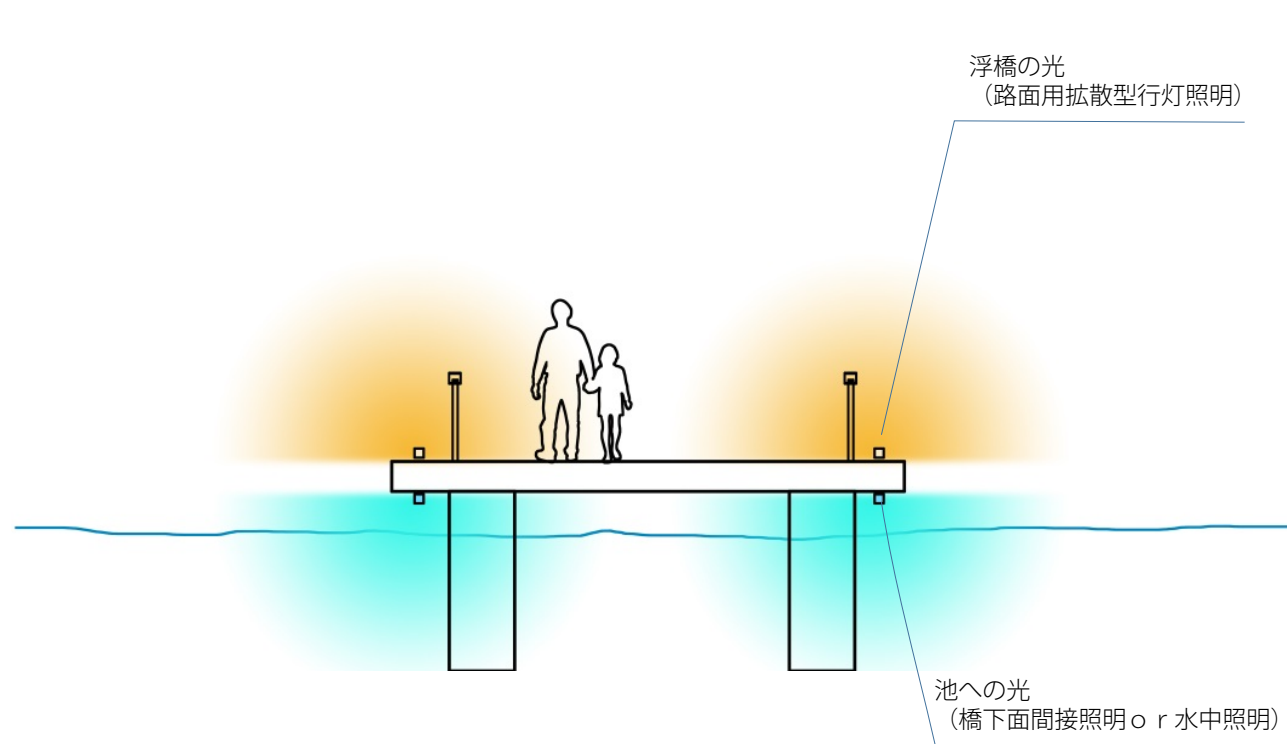
建造物への光
(スポットライト)

環境を賑やかに演出する光
(拡散型LEDライト)



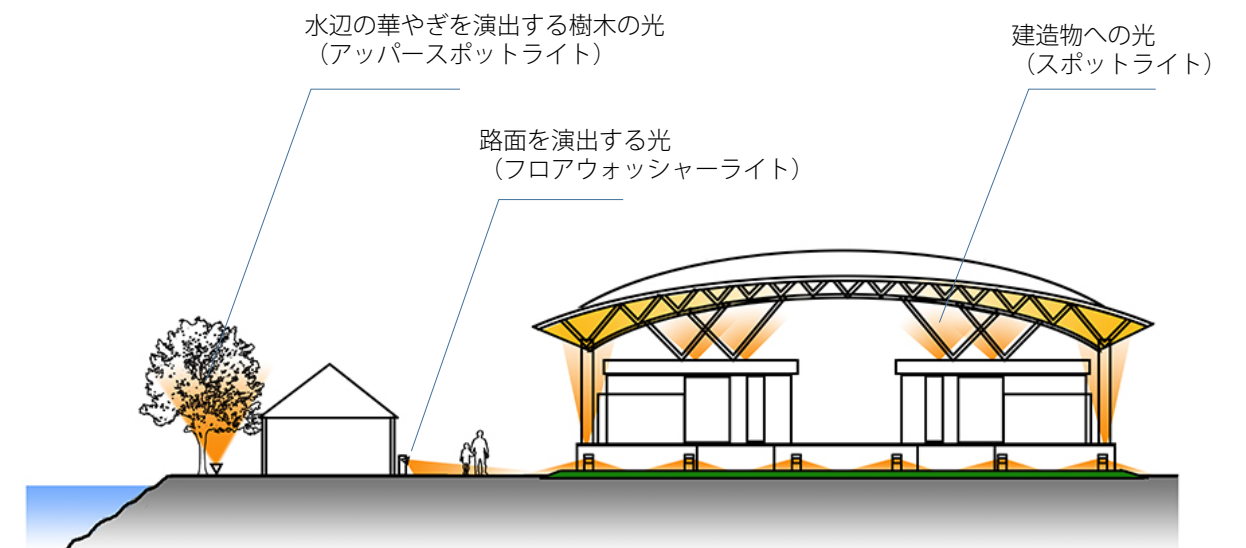
⑩ 池・浮橋エリア

沖縄こどもの国の特徴でもある水景の体感的エリアとして、夜間浮橋を歩く人達に浮遊感と幻想的な感覚を演出する。



⑫ 芝生広場

夜間の一番利用が多い退園ルートとなる見込み。歩くことが楽しくなるような、夜間も明るいエリアを目指す。



⑫ 東ゲート～東駐車場

メインエントランスと同様、駐車場内の安全を確保し、エントランスゲートへ誘導すると同時に、周辺の環境に配慮した計画が必要となる。※メイン駐車場も同様



駐車エリア安全のための光
(配光制御されたポール灯)

